

ヒアリング結果の要点

○ヒアリング実施状況

歴史的背景及び整備・管理状況等に関するヒアリング

分野	対象者	所属	実施状況
歴史	原 武史	放送大学教授	実施済
緑地・生態系	亀山 章	(公財)日本自然保護協会理事長	実施済
景観	池邊 このみ	千葉大学教授	調整中
国民公園史	井原 縁	奈良県立大学教授	調整中
都市公園	下村 彰男	東京大学教授	実施済
エリア マネジメント	保井 美樹	法政大学教授	調整中

利用状況、変化状況及び利用者ニーズの把握に関するヒアリング

分野	対象	実施状況
観光等	(株)はとバス	実施済
	(公財)日本交通公社 (JTBF)	実施済
	(株)やまところ 代表取締役 村山 慶輔氏	実施済
	(一財)カルチャー・ヴィジョン・ジャパン (CVJ)	調整中
	(一社)大手町・丸の内・有楽町地区町づくり協 議会	調整中
行政	東京都建設局公園緑地部計画課	調整中
皇居外苑の 運営管理	(一財)国民公園協会	調整中

(調整中の対象者へは、新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、対面によらない書面等のやりとりによる方法も用いてヒアリングを実施する予定)

○歴史的背景及び整備・管理状況等に関するヒアリング 要点

【皇居前広場の利用の歴史的経緯について】→資料 3 - 1 p.4

(原氏)

- ・大正 13 (1924) 年～昭和 20 (1945) 年 (天皇制の儀礼空間としての利用が活発に行われた時期) の広場の使われ方 (儀礼の場としてのなにも置かない空間、繰り返し行われた親閲式等) が、「天皇のための空間」「聖地」としての位置づけを確立し、神聖な雰囲気が出来上がった。
- ・戦後、「5・30 人民決起大会」での占領軍と政党・労働組合との衝突を機に、宮城前広場での政党・労働組合による集会活動が規制されていき、「血のメーデー」の記憶も伴って、容易には使えない雰囲気、神聖な空間という意識が高まったといえる。

【皇居外苑の利用の在り方について】→資料 3 - 1 p.6-8 p.11

(原氏)

- ・ワールドカップ、スポーツ観戦のパブリックビューイングの場など、不特定多数の人たちが集まり熱狂する可能性があるような使い方ではないことから認める方向で考えるのがよいのではないか。
- ・内堀通りを境に皇居側と東京駅側とで少し広場のイメージや使い方が異なるかもしれないが、去年の式典¹では、内堀通りより皇居側に入れなかった人たちが東京駅側の広場にも大勢いて、内堀通りの中・外とで違いはあまりなかったのではないか。大きなイベント時には内堀通りを止め、一体的に使うようなことができればよいのではないか。

(下村氏)

- ・利活用の門戸が開かれることは、企業にとってはビジネスチャンスともなるため、実施できる利用形態については、公的機関の主催・共催に限る、金銭の授受を禁じる、週末利用を禁止する等、ハードルを高く設定し、上手にルールづくりをする必要がある。
- ・日比谷公園でイベント等をやることがステータス、ブランディングになっている。皇居外苑では、更にその意味合いが強くなるのではないか。

【日比谷公園との連携について】→資料 3 - 1 p.13

(下村氏)

- ・日比谷公園を開いていきたいという考えがあり、周辺のみどりとのつなぎ方は、視

¹ 天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典 (令和元 (2019) 年 11 月 9)

覚的なつなぎ方、機能的なつなぎ方があると考えている。

- ・日比谷公園の内部が外（街）から見えるように樹木を整理する方向で検討。テニスコートを再整備し、皇居外苑側とつながりやすいようにできないか検討中。
- ・皇居外苑と日比谷公園を行き来して利用する人は、現状ほとんどないのでは。皇居外苑との間にはお濠があり、アクセス性は悪いが、日比谷公園側の樹木を整理して、双方からお互いの利用者が見えるようになれば回遊性が高まるのではないか。
- ・日比谷公園は身近なスポーツの振興に寄与してきた歴史のある公園であり、スポーツ・健康拠点を作り、ランニングする人の流れで皇居外苑や皇居とつなぐというアイデアがある。
- ・サインの統一や広域的な公園の機能分担など、セントラルパーク構想が土台になれば考えていける。その構想の下で協議会が機能し、日比谷公園と皇居外苑等の利用についても判断させることもできるかもしれない。そこでは国と都との連携をどのように実現するかが課題になるだろう。

【現在の利用実態について】（→今後の状況等を踏まえてアンケート実施を検討）

（亀山氏）

- ・利用実態に関する調査をきちんと行い、利用実態を把握した上で利用の在り方を考えるべき。

（下村氏）

- ・日比谷公園の利用について問い合わせがあったものでは、大使館のフェア、物産展、オクトーバーフェスタ、宗教団体のイベント等様々なものがある。利用のニーズについては、日比谷公園や上野公園に問い合わせのあった利用について情報提供を受けても良いのではないか。

【中央公園としてとらえる視点について】 →資料 3 - 1 p.13-14

（亀山氏）

- ・広域的な視点でとらえ、都市計画東京中央公園という、皇居を取り巻く大きな公園が国民にとって大事な場所である、という意識が重要。都市計画上は「都市計画中央公園」であり、皇居外苑はその一角をなしている場所である、「中央公園」というまとまりある緑地の中にある一つの空間としてとらえるのがよい。

【皇居外苑の生態的な位置づけについて】 →資料 3 - 1 p.4

（亀山氏）

- ・東京の都心で一番自然豊かな場所が皇居である。絶滅危惧種も多くいる自然の宝庫である。皇居外苑を含む「中央公園」はその周りがある、皇居を取り囲むバッファであり、皇居からの生きもののにじみだしを受け止める場となる。

【サイン表示について】 →資料 3 - 1 p.13

(亀山氏)

- ・周辺は発信できる・見どころとなる資源がたくさんある歴史の宝庫である。皇居外苑だけで考えるのではなく、周辺地域も含めて一体的に情報発信するサインが必要。

【情報発信拠点について】 →資料 3 - 1 p.13

(亀山氏)

- ・東京駅付近や、行幸通りを通過して皇居へ向かう表玄関となる皇居外苑に、東京セントラルパーク全体や歴史的遺構・資産を来訪者に紹介できる、楽しんでもらえるインフォメーションセンターがあるとよい。

【文化的、歴史的景観について】 →資料 1 - 3 p.2-4 p.12-14

(亀山氏)

- ・皇居外苑の景観上の特徴は、松と芝生である。原 熙（はら ひろし）東大名誉教授 農学博士の意見で戦前の皇居御造営の仕上げとして造られ維持されてきた景観である。日本人にとって非常に大事な原風景にもなる歴史的景観である。そのことをしっかり意識して、あの風景を壊さないことを考えるべき。

【内堀通りについて】 →資料 3 - 1 p.14

(亀山氏)

- ・凱旋道路（現内堀通り）は歴史的にみると、そもそもは大勢の人が安全に出入りできるように考えてできた通りである。現在、それが空間の広がりをつ断し、皇居外苑の利用を妨げている一番の要因になっていることをきちんと意識し、どうしたらよいかを考えるべきである。道路をなくす（地下化する）、掘り下げて半地下にして車が見えないようにする、その上に橋をかける、などやり方はいろいろ考えられる。

【長期的視点での検討】 →資料 3 - 1 p.14

(亀山氏)

- ・皇居外苑という大事な場所でものごとを考えるには、基礎的な調査を行い、実態をきちんと把握する時間をとり、ちゃんと時間をかけて長期的に検討することが大事である。

○利用状況、変化状況及び利用者ニーズを把握するために行うヒアリング 要点

【皇居外苑の観光利用の状況】 →資料 3 - 1 p.13

((株) はとバス)

- ・ 毎日 10 台弱のバスが皇居外苑に行っている。乗客数は 20～30 名／台程度。
- ・ 地方からの来訪者が 6～7 割、シニア層が中心である。
- ・ コースの最初に皇居を訪れるパターンが多い。皇居→東京タワー→浅草、皇居→浅草→スカイツリーが主要コース。
- ・ 季節は、11 月の秋の行楽シーズン、3～4 月のお花のシーズン、お正月一般参賀の時が多い。
- ・ 楠公エリアの駐車場からは、二重橋前まで案内して戻るコースになる。また、坂下門前でバスを降りていただいて（バスは楠公駐車場へ回送）、二重橋前を經由して楠公駐車場までガイドして歩くコースも設けている。
- ・ 皇居をめぐるツアーの近年の利用者数は以下のとおり。

皇居を組み込んだコースの参加人員

2017年1月～12月 69,000名

2018年1月～12月 59,000名

2019年1月～12月 70,000名

((公財) 日本交通公社)

- ・ 東京都で主要な観光地等に地点を決めて入れ込み客数を毎年モニタリングしている情報があるのであためるとよい。
- ・ 毎日午前と午後に 1 回ずつ実施している一般参観（ガイドツアー）の参観者数は宮内庁から公開されているものがある。近年は外国人の増加により全体人数が増加している。

【利用上の課題について】 →資料 3 - 1 p.13-14

((株) はとバス)

- ・ 東御苑散策の際には駐車場所に困っている（どこからも遠い）。和田倉エリアも駐車場から遠いのがネックである。
- ・ エリアが広いため、周遊バスなど苑内を容易に移動できる手段があると、時間的制約の中でもエリア全体を楽しんでいただけるようになってよい。
- ・ 楠公エリア周辺などに、屋根もあって休憩できる場所が少ない。夏場など高齢者にはつらい。
- ・ 北の丸の駐車場は、土日はイベントでふさがれることもあり、観光業としては利用しにくい。イベント開催時にも、一定の台数を止められるような仕組みになると使

いやすくなる。

【利用者ニーズについて】 →資料 3 - 1 p.13-14

((株) はとバス)

- ・日本観光に慣れた外国人は日本人向けのツアーコースを希望する方が多い。
- ・夜の時間帯のツアーは皇居外苑地区では今のところない。皇居外苑ライトアップも魅力はあるが、それだけでなく、レストランでの食事や、“知られざる皇居外苑の歴史”というようなプログラムとセットで考えられるとよい。
- ・皇居の中が見たいという期待が少なからずある。皇居の中の様子がヴァーチャルで見えてとれるような仕掛けがあると満足度を上げられる。
- ・広場の雰囲気は喜ばれている。東京駅前、都心の真ん中にあるような空間が広がっていることを驚いている外国人観光客が多い。和風の景観の背後に高層ビルが見えるというところに日本らしさを感じている外国人が多い。
- ・歴史専門の講談師や大学の先生など招いての歴史案内ツアーは需要が多い。

((公財) 日本交通公社)

- ・大きなイベントとしては、音楽的なものがあると面白い。

((株) やまごころ)

- ・皇居やあの地域で知ることのできる「歴史」を求めて足を運ぶ人、「自然」や「リラックス」を求めて足を運ぶ人、それぞれがいる。
- ・観光客目線でみると、都心にあってあれだけの規模の緑地、日本らしさを味わえる空間は、歴史だけではなく、自然や憩い、落ち着いた時間をゆっくり過ごすような利用を目当てに訪れる外国人観光客が多いと思われる。まずはゆっくり過ごし楽しんでもらい、そのあとで歴史を伝えられればよい。
- ・ナイトタイムエコノミーという言葉があるように、海外では夜も観光やくつろぎの時間として需要が大きい。皇居周辺でも、インバウンドへの対応として夜も楽しめることがもっと多くあるとよい。
- ・現在は観光バスで訪れて集団で歩いて観光するまでにとどまっているが、もっと少人数のグループや個人を対象として、皇居外苑を含め皇居周辺をめぐるガイドツアーがあると良い。海外ではよく、そのようなガイドツアーが充実している。

【利用の在り方について】 →資料 3 - 1 p.13-14

((公財) 日本交通公社)

- ・レクリエーション利用（心身リフレッシュ）と、観光利用（知的好奇心充足）とは分けて考えるべき。皇居外苑やその周辺は双方の適地であり、いずれも皇居ならではの利用者意識や空間特性によって、高い誘客力をもっている。例えば東御苑のガ

- イドツアーは6か国語で実施し、季節ごとの追加的情報などもあり充実している。一方、皇居外苑は、簡易なレクリエーション利用やジョギングなどの適地である。
- ・東御苑から皇居外苑にかけては、皇居の中核的なところから都市の世俗的なところへのバッファーとして、国民が楽しめる空間がうまく配置されていると感じる。
 - ・外国人観光客に対しては、レクリエーションよりも、限られた時間の中で観光として日本の中核的なものを見て回ってもらうことが主体となるであろう。
 - ・周辺からみて皇居外苑がどうなのかというよりも、皇居の中に対して皇居外苑がどうあるべきか、何ができるのか、という見方が重要と思われる。
 - ・皇居や東御苑の中ではできないようなこと、提供できないサービス、訪れた記念になるようなことを提供していくのが皇居外苑の役割になるのではないか。

((株)やまところ)

- ・皇居は国内でも唯一無二の存在であり、海外からみても観光資源としての価値は非常に高い。
- ・「天皇」は海外では珍しい存在である。また、皇居その場所に実際に住んでいるという点が、海外からみると非常に大きな特徴であり、インバウンドにおける皇居の求心力はとても強い。
- ・イベント的な新しい利用の在り方を考えるのもよいが、インバウンドに関しては日常利用、一般の観光利用の在り方が重要である。団体観光客ではなく、少人数・個人の方のニーズに向けて、ガイドやサインの充実、セルフガイドの工夫などを考えることが大切。

【情報発信について】 →資料 3 - 1 p.13-14

((株)はとバス)

- ・歴史的背景はバスガイドが解説案内している。現地にあるパンフレット等は、お客さんはなかなか手に取ってみることが少ない。案内板などが必要と感じている。
- ・外国人向けの案内の充実が必要。博物館にあるようなセルフガイド機器などがあると良い。
- ・歴史的な名所の案内板の整備のほか、団体バスは東御苑前で降りて楠公駐車場に回送しなさいというような誘導案内の整備だけでも、皇居観光をよりスムーズに行いやすくなるので、そのような整備があると有難い。
- ・バスガイド用のテキストに自然に関する案内はほとんど入れられていない。そのような情報を提供いただくとガイドに活用できる。花の写真を撮るツアーなどは実施したことがあるため、そのようなツアーで、季節的なみどころ紹介の情報としても活用できる。
- ・皇居外苑として推すのは難しいと思われるが、パワースポットめぐりもツアーにな

る。二重橋前の写真が運気を上げるという情報が広まっている。

((公財) 日本交通公社)

- ・ジョギングなどスポーツ利用しようとする、道具や施設の備えが必要になる。皇居周辺にはジョギングステーション（サービス施設）がいくつもある。一般利用者にもそのような周辺のサービス施設などがわかるインフォメーションがあるとよい。
- ・有償ガイドやボランティアを場所内容に応じて配置して、来訪者へのインフォメーションを充実させられるとよい。

((株)やまどころ)

- ・タブレット端末で昔の様子を写真で見せながら昔と今を比べる、みどころをガイドするなど、日本の歴史をあまりよく知らない外国の観光客に向けて、歴史情報の発信・伝え方を工夫するのがよい。

【広域的な利用・連携について】 →資料 3 - 1 p.13-14

((公財) 日本交通公社)

- ・外国人向けの旅行ガイドブックには、皇居を巡るツアーの情報が掲載されている。日本のガイドブックには二重橋前の紹介以外ほとんど情報がない。皇居周辺の情報がいくつもあるにはあるが、集約されておらず、散逸している。
- ・観光利用で誘客圏を広く見ていき、東京駅の駅舎など周辺にある集客力の高い観光対象も含めて情報発信していけるとよい。二重橋前の景色は皇居を代表する誘客力のある観光資源である。
- ・地方から観光や出張で東京に来た人に向けて、東京駅発着で東京駅周辺の歴史的建造物や皇居外苑などを見て歩くようなガイドツアーがあるとよい。
- ・江戸城に因んだ地名、施設名を観光の題材にすることもできる。例えば「丸の内」は昔の江戸城敷地内だったことに由来している。江戸城内外のかつての様子を重ねて今の状況を案内すると、気付かないことに気づけるようになり、来訪者の興味を引き出せる情報がいろいろある。それがガイドツアーの醍醐味である。